+ 177			T: /TT >		- ,	
真岡	而行	т⊮⊽≣≀	¥1m~	ノム	ナ /・	·

事務事業マネージメントシート 作成日

評価対象年度 平成22年度

平成23 年 05 月 10 日

事務	事業名	自然	《教室推進事業					担当			教育	育委員会	自然教育t	<u>マ</u> ンター		
政	策名	В	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり				電話番号	를	0285-83-1277							
施	策名	2	小・中学校の教育の充実					実施計	画上の	È要事業						
基本	事業名									単年度のみ						
法	令根拠	真岡	市自然教育t	マンターの設置、	、管理及び使用	用条例	_	事業期間		□単年月	度繰返	(開始年度	S60	年度~)		
予]	算科目	1	.一般会計 10.教育費 4.社会教			0 白妖教育センター巻				□ 期間	艮定複	数年度(年	度~ 年度)		
		豊か	 な自然の中での)集団宿泊を通じて	 未来を担う子ども	たちの個	<u>┃</u> 建全な育成を図ることを	<u> </u> - 目的に、市内小学校		 4・6年生及	び中学	校1・2年生を	E対象に、宿泊	3体験学習を実	施し	
		ている	。活動計画は、	各学校が主体とな	り、それぞれの児	童生徒の		作成している。	実施日(施日の1ヶ月前に各学校とセンター指導主事とで打合せを行い、活動計						
事	業概要	自然	教育センターに	こおける事業の円滑 海自然教室推進事業	な推進と利用学校	との緊	密な連携を図るため、「	自然教育研究名	会」を3回	実施してい	ຈໍ .					
		自然	教室の事業内容	₹を理解してもらう	ため、「新採転採	教職員研	研修」を1回実施している	5.								
1. 瑪	見状把握の	部(1)事務事業の	目的と指標												
	と (主な活動	j)				⑤活動	助指標(事務事業の活動	量を表す指標		n I	(-t- (-t-)					
22年度 入所1		前打合せ	:(32回)、必要	要な物品の準備及び	ボランティ		名称		- 里	位 19 年度	(実績)	20 年度(実績)	21 年度(実績)	22 年度(実績)	23年度(見込)	
3年:	2泊3日、4・	6年:3%	泊4日、中1・2年	動報告書作成、宿》 F3泊4日)、活動指		アリ	見童生徒入所週数		ì	8	27	27	30	32	31	
自然教 新採軸	效育研究会(云採教職員研	年3回) F修開催	(年1回)				自然教育研究会開催回数			a	4	4	3	3	3	
						1										
						ウ *	听採転採教職員研修開催回数				1	1	1	1	1	
							71744147774WS WI IS NOTE 113A			-						
23年度	計画					I										
基本的				と同様。(小5の利	用可)											
7 (7)	7 7 3 13 0 2 - 1	,,,,,,,,	100, 0.110			オ										
② 対象	& (誰、何を	対象にし	しているのか)。	*人や自然資源等		6対象	象指標(対象の大きさを	表す指標)の推	推移							
自然教育センター利用者数 市内小学校 3・4・6年生 市内中学校 1・2年生						名称		単	位 19 年度	$\overline{}$			22 年度(実績)			
					1	5内小学3・4・6年及び中学1・2年の児童生徒数			·	3288	3275	3983	3989	3965		
						ウェ										
	_ (オ	オ			- 111 - 4						
			て、対象をどう? 動をさせ、心身			⑦灰茅	<u> </u>	図された対象の		り推移 位	(実績)	20 年度(実績)	21 年度(実績)	22 年度(実績)	23年度(見込)	
			会性と自立心を				ア 友だちや先生等とのふれあいを深めることのできた児童生徒の割合			6				82.8 61.9	85 65	
						ゥ								01.9		
						エカ										
			施策) に結びつ			8上位	立成果指標(結果の達成	度を表す指標		#	(mex)	ケウ(内(木)	** 左座/中纬\	左座(内体)	** 左座/目33 \	
知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成する。 【より適切に事業を評価できるようにするため、名称を平成21年度より				ア:	名称 自然教室の活動に満足した児	童生徒の割合	9		(実績)	20 年度(実績)	21 年度(実績) 87.0	22 年度(実績) 86.6	23 年度(見込)			
新たに設定しなおした。】					イゥ											
						エ										
(2) \$4	(事業費の	₩ 12		## (±	F # / rb	オ:	20 年度(実績)		** F.F.	(rh4±)	$\overline{}$	** / ** / **	76#\	左座	(B)3\	
(2) 19			国庫支出金	単位 千円	19 年度(実		0 20 年度(美額)	0	21 年度	(美額)		22 年度(実	0	23 年度	(兄込)	
	事業費 ::		県支出金	千円		63	36	574)		0		0	
投 入 量	費 内…		地方債 その他	千円 千円			0	0)		0		0 0	
量		事業	一般財源 計 (A)	千円 千円		9,56		8,097 8,671		6,387			10,302 10,302		0	
	<u>Д</u> [能員従事人数	人			4	5		0,387			7		0	
	件費		べ業務時間 特計(B)	時間 千円		2,88		3,252 13,587		3,281 13,308	_		3,481 14,857		0	
	<u> </u>		スト(A)+(B)	千円		22,29		22,258		19,695			25,159		0	
(3) 事	務事業の	環境変	化・市民意見	等												
	事務事業を) 教育日本一 	の都市「真岡」実理	見のための施策(青少年健	全育成のための第三の教	教育の場の設置	しとして	、昭和60年	4月から	始まった。				
	fっかけは何 ごろどんな糸															
開始さ	れたのか。															
②車型	女声光を かん	1#/	昭和60年の		年生から中学校3:	圧生まで	を対象として 2泊3日か	いら5泊5日で宝	施してい	たが学校调	5日制の) 段階的宝施	や とちぎ海	近白然の家設	置(亚成4	
②事務事業を取り巻く 状況(対象者や根拠法 令等)はどう変化して いるか、開始時期ある					,また、	平成18年度からは、と	5ぎ海浜自然の	家利用の	小学校5年5	主と修写	を旅行等の中	学校3年生が招	業時数確保の	観点か		
					-1-12	107 (7(0)(0)(0)	7. TIMEL-13.	באוכ מ.	. 000/ (2019)	11100	旧り上り 千0	- 6 7 10.				
いは 5 年前と比べてど																
う変わったのか?																
			\	In the second second		MK	**************************************		India process							
_)事務事業に						。教職員にとっては利用 詳課題検討委員会より利用)事業の教育的	対果は認めて	いる。視察	
事業対象者、利害関係																
者等) からどんな意見 や要望が寄せられてい																
るか?																

1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 ■結びついている □ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 未来を担う子どもたちの健全育成を目的とする本事業は、市の施策に直結し、政策体系と結びついている。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? 目的妥当性評価 ■ 妥当である ②公共関与の妥当性 ■ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 小中学校の教育課程に位置づけられた事業であり、公共関与は妥当である。 ・税金を投入して達成する目的か? ③対象と意図の妥当性 □ 適切である □ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・対象を限定・追加すべきか? 市内小学校3・4・6年生、中学校1・2年生の全児童生徒を対象とした教育活動である。 意図を限定・拡充すべきか? □ 向上余地はない □ 向上余地がある 児童生徒の満足度が向上するように、活動内容の工夫や活動の主体となる学校との協力・連携をいっそう強化する。 ④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がない 影響がある ・ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? ──心の教育・生きる力の育成のための効果的な実践の場である本事業が廃止されることは、心豊かで人間性あふれる人づくりを推進する教育機会を減らしてしまうことになる。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? 類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? ⑦事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 事業費の主なものは、送迎用のバス借上げ料、扶助児童生徒への交付金、活動用の消耗品及び外部指導員への謝金 等であり、学校の希望する十分な活動を実施するためには必要最小限の経費であり、保護者への負担軽減のため にも削減できない。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 □ 削減余地がない □ 削減余地がある 各学校の利用状況に応じた業務であり、目的連成のための必要最小限の人件費で行っている。 ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ____ 学校教育活動の一環であるとともに、利用者から食費やリネン料を徴収している。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 ■ 継続 体験学習を通して、教師と児童生徒が一緒に更に達成感や成就感を体感できるような活動内容の工夫が必要である。 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 活動の実施時期や各学校の規模等により、内容や指導の方法を工夫すると共に、更に各学校との連携を密にし児童生徒の目的認識の高揚を図るよう努める。 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🗌 適切 🗌 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)